

AB-206 の 臨 床 的 研 究

大久保 滉・岡本 緩子・呉 京 修
 右馬 文彦・上田 良弘・前原 敬 悟
 関西医科大学第一内科

AB-206 はわが国(住友化学工業株式会社)で開発された合成抗菌剤で、Fig.1のようにNA(Nalidixic acid)ないし Piromidic acid¹⁾, Pipemidic acid²⁾に類似した化学構造を有する。本剤の抗菌スペクトルはNAよりもすぐれ、NAが抗菌作用を有しない緑膿菌、ブドウ球菌、一部の嫌気性菌に対しても抗菌力を有するとされている³⁾。今回、本剤について臨床的研究を行なったので報告する。

I. 臨 床 研 究

1. 研究対象

昭和52年3月から5月までに当科を受診した気道感染症4例、尿路感染症2例の計6症例に投与した。性別は男2例、女4例で、年齢は31歳から60歳におよんだ。起因菌は *Streptococcus pneumoniae*, α -haemolytic *streptococcus*, *Klebsiella*, *E. coli* であった。

2. 使用方法, 使用量

1,500 mg~2,250 mg を1日3~4回に分けて内服させた。使用期間は4日~9日間である。

3. 成績

症例の概要は、Table 1のとおりであるが、以下に個別の症例について述べる。

症例 1 T. G., 33 歳, 男. 急性気管支炎

来院3日前より、咳嗽および喀痰を来たして当院に来院。喀痰からNA感受性の *Streptococcus pneumoniae*

を検出し、本剤1日1,500 mgを7日間投与したが、咳嗽、喀痰は軽減せず、無効と判定した。副作用は認めなかった。

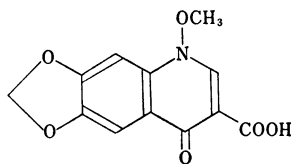
症例 2 M. H., 53 歳, 女. 急性気管支炎

咳嗽、喀痰を主訴として来院。白血球5,900(好中球79%)、喀痰から α -haemolytic *streptococcus*を検出し、本剤1日1,500 mgを併用、7日目から咳嗽、喀痰も消失し、9日間使用して一応有効と判定した。副作用は認めなかった。

症例 3 C. T., 54 歳, 女. 慢性気管支炎

来院1週間前から37°C台の発熱、咳嗽、喀痰を来たし、某医で治療を受けていたが軽快せず、本院に来院。喀痰中からNA感受性の *Klebsiella*を検出した。本剤1日1,000 mgを開始2日目から解熱したが、4日目に再度37.8°Cの発熱を認め、1日2,250 mgに増量した。発熱は持続し、咳嗽、喀痰も軽減せず無効と判定した。

Fig.1 Chemical structure of AB-206



5,8-dihydro-5-methoxy-8-oxo-2H-1,3-dioxolo-[4,5-g]quinoline-7-carboxylic acid

Table 1 Results of clinical trials with AB-206

No.	Name	Age	Sex	Diagnosis	Bacteria	Daily dose (g)	Days	Effect	Side effect
1	T. G.	33	M	Acute bronchitis	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (++) NA	1.5	7	Poor	—
2	M. H.	53	F	Acute bronchitis	α -haemolytic <i>streptococcus</i>	1.5	9	Good	—
3	C. T.	54	F	Chronic bronchitis	<i>Klebsiella</i> (++) NA	1 2.25	5 2	Poor	—
4	H. T.	60	M	Chronic bronchitis	α -haemolytic <i>streptococcus</i> (++) NA	1.5	4	Good	—
5	S. N.	44	F	U. T. I.	<i>E. coli</i> (++) NA	2	4	Good	—
6	S. N.	31	F	U. T. I.	<i>E. coli</i>	2	6	Good	—

副作用は認めなかった。

症例 4 H. T., 60 歳, 男。慢性気管支炎

1 週間来咳嗽, 喀痰が持続して来院した。喀痰より NA 感受性の α -haemolytic *streptococcus* を認め, 本剤 1 日 1,500 mg を 4 日間投与で症状の軽快を認め有効と判定した。副作用は認めなかった。

症例 5 S. N., 44 歳, 女。急性膀胱炎

37°C 台の発熱, 頻尿, 排尿時痛を来して来院した。尿沈渣で白血球 1 視野に 10~20 個, 尿中から NA に感受性のある *E. coli* を検出した。赤沈 1 時間 50mm, CRP 2mm, 白血球 8,000 と増加していた。本剤を 1 日 1,500 mg の投与を開始し, 2 日目から自覚症状は消失し, 4 日間で菌の陰性化, 諸検査の改善を認めて有効と判定した。副作用は認めなかった。

症例 6 S. N., 31 歳, 女。尿路感染症

SLE で Steroid 使用中に 37°C 台の発熱, 中間尿より *E. coli* を検出した症例で, 本剤 1 日 2,000 mg を 6 日間使用し, 菌の陰性化, 解熱を認めた有効例である。副作用は認めていない。

4. 考案

臨床 6 症例に本剤を使用した。気道感染症では喀痰より *Streptococcus pneumoniae* を検出した急性気管支炎の 1 例, *Klebsiella* を検出した慢性気管支炎の 1 例はともに NA 感受性を有したが本剤では無効であった。 α -

haemolytic *streptococcus* を検出した気管支炎 2 例には有効であった。尿路感染症においては, *E. coli* による 2 症例ともに有効であった。以上 6 例中有効 4 例, 無効 2 例であった。副作用は自覚症状の訴え, および投薬前後の臨床検査 (BUN, クレアチニン, GOT, GPT, ALP, RBC, WBC, Hb, Ht など) の異常の有無を観察したが, 全例ともに認めなかった。

われわれの経験例は少数にすぎないが, 基礎的な検討成績³⁾と勘案して, 本剤は軽症の感染症には用いることのできる化学療法剤と考えられる。

II. 結 語

新抗菌剤 AB-206 の臨床効果を, 急・慢性気管支炎各 2 例, 尿路感染症 2 例, 計 6 例について, 1 日 1,500 mg ~2,250 mg 投与で観察した。その結果 4 例に効果を認めた。

なお, 副作用は全例とも認めなかった。

文 献

- 1) 大久保晃, 藤本安男, 岡本緩子: Piromidic acid の使用成績。Chemotherapy 19: 459~462, 1971
- 2) 大久保晃, 岡本緩子, 呉 京修, 右馬文彦, 上田良弘: Pipemidic acid の基礎的臨床的研究。Chemotherapy 23: 2854~2860, 1975
- 3) 石神襄次: 第 24 回日本化学療法学会東日本支部総会, 新薬シンポジウム AB-206, 札幌, 1977

CLINICAL STUDIES ON AB-206

HIROSHI ŌKUBO, YURUKO OKAMOTO, KYOSHU GO, FUMIHIKO UBA,
YOSHIHIRO UEDA and KEIGO MAEHARA

First Department of Internal Medicine, Kansai Medical University,
Moriguchi, Osaka

AB-206, a newly synthesized antibacterial chemotherapeutic, was studied on its clinical effectiveness, and the following results were obtained.

Six patients (acute bronchitis 2, chronic bronchitis 2, and U. T. I. 2) were treated orally with AB-206 (1,500 mg~2,250 mg/day). Good results were obtained in four and poor in two of the cases. No marked side effects were observed throughout the clinical trials.